

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち ゴジュウカラ (ゴジュウカラ科)



木の表面を動き回る小さな鳥。体上面は青灰色、下面は白色、尾羽の付け根は淡い赤褐色で、目の周りに黒い帯状の模様がある。山地の古木があるような自然度の高い森林に棲み、留鳥だが、高地で繁殖した個体は冬に低地に移動する。

雑食性で、昆虫類やクモ類、果実などを食べ、樹皮の隙間、枝の分れ目などに隠れている餌を探す。他の鳥ではできない幹を下向きの姿勢で下ることもある。秋になると、果実などを樹皮の隙間や樹皮と苔の間などに埋めておく貯食を行い、食べ物が少ない冬に食べる。巣は、樹洞やキツツキの古巣を利用する。木から餌を得て、餌を隠すのも木、また、巣も木の中に作る。このようにゴジュウカラは木に寄り添って生きている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.63

エノキ (アサ科エノキ属)

北海道を除く日本全国に自生するアサ科の落葉高木で、高さ20m、幹の直径は1m以上になり、江戸時代に街道の一里塚として植えられた木です。以前はニレ科に分類されていました。

名前の由来は、①縁起が良いという木「ヨノキ」、②器具の柄の「柄の木」、③赤い実が鳥のエサとなる「エサの木」、④枝が多い「枝の木」、⑤よく燃える「燃え木」など多くの説があります。

材は、心材と辺材が明瞭でなく、やや硬いが強さは比較的なく、狂いが出やすく腐れが入りやすいため、建築材としてはあまり利用されず、器具、家具、まな板などの雑用材や火力があるため薪炭材と

して利用されてきました。

甘い果実は、ムクドリやヒヨドリなどの野鳥のエサになり、昔は飢饉の際の非常食として重宝されました。

なお、国蝶であるオオムラサキは主にエノキの葉を食べて育ちます。

エノキは、鳥や虫たちにもとっても生命をつなぎとめる大切な存在です。(皿)



材面



樹皮

職場体験

八王子市立甲ノ原中学校

10月5日(火)～7日(木)の3日間、八王子市立甲ノ原中学校の2年生3名が、当センターで職場体験をしました。

初日は、小学生対象の森林教室の日と重なり、さっそく森林学習と丸太切りの指導補助をしてもらいました。丸太切りでは、初めは遠慮がちな様子でしたが、すぐに職員と一緒に小学生に切り方のコツを教えたり、皮むきの手伝いをしたりしていました。その日の業務日誌には「丸太切りや荷物運びの手伝いをするととても達成感を感じました。」と書かれていました。センターに戻ってから、日本の森林・林業についての講義とセンサーカメラの映像チェックを体験しました。

2日目は、間伐体験(丸太切りの材料採取)です。今回は女子生徒3名だったので、体力的に大丈夫か少し心配しましたが全くの杞憂に終わりました。近くの国有林に到着後、ヘルメットに名前、血液型を書いてもらい、その理由や林内移動の際の注意点、蜂の対処法、エビペン携帯などについて説明。生徒さんは初めて聞く話ばかりのようで、興味津々で聞いていました。防蜂網、防蜂手袋を装着してから林内に移動し、選木の仕方、伐倒の手順を説明した後、3組に分かれて一人1本ずつ伐倒、枝払い、玉切りを体験。最後は約2畝に切った丸太を林道まで運び出す作業ですが、みな上手に丸太を肩に担いで歩いていました。一汗かいた後は、センサーカメラの電池・SDカード交換を体験。センターに戻ってからは職員が拾ってきたクラフト材料の仕分け作業、クラフト試作と盛りだくさんな一日となりました。

3日目は、遊歩道の点検と自然観察です。遊歩道や木階段に危険な箇所がないか、樹名板などに異常がないかなどを点検しながら、道沿いの植物の特徴や地図の見方などを学習してもらいました。高尾山頂まで歩きましたが、ただ歩くだけではなく、色々な樹木・草本や森林を観察・学習しながらの山歩きはとても楽しく有意義に感じたようです。

「自然を活かした仕事を体験したい。」「森林や林業に関わる仕事の内容が想像できなかったので興味を持った。」などの動機で当センターを選んでいた生徒さんたちには、3日間である程度満足していただけたと思いますが、これからも色々と体験内容を工夫しながら積極的に職場体験を受け入れていきたいと考えています。(枝)



初めて体験する間伐作業



センサーカメラの電池交換



思ったより大変！クラフト材料の選別



小学生に丸太切りの指導



遊歩道点検を兼ねた自然観察

出前森林教室

八王子市立 七国小学校

10月5日（火）に、八王子市立七国小学校5年生123名の森林教室を、移動教室の宿泊先である「高尾の森わくわくビレッジ」で実施しました。当日は、午前中のみ短い時間のなかで、森林学習と丸太切りを実施しました。森林学習では、地球温暖化に関するアニメや、森林とSDGsの関わり等について説明したところ「SDGsについて学習を進めているところなので大変良かった」と児童よりむしろ先生方に喜んでいただいたようです。丸太切りでは、「腰が痛い、手が痛い」と言いながらも一生懸命に切っていました。中には、厚さ数ミリの輪切りに挑戦する児童もあり、上手く切れると定規を取り出し、厚さを測って自慢気の児童もいました。丸太切りが終わると、みんなで協力し片付けする姿がとても印象的でした。最後の閉校式で、「森林には、水を蓄える、動物のすみかとなる、災害を防ぐ、温暖化を防ぐ、木材を生産するなど多くの役割があり大切なことを学びました。森林を守るため、まずは身近にあるゴミを拾うなどして自然環境を守っていききたいと思います。」との児童代表からの感想を聞き嬉しさを感じた森林教室となりました。（谷）



真剣な表情で講義を聴いています



切れたっ！

森林教室

八王子市立 第三小学校

10月13日（水）、八王子市立第三小学校の児童106名を対象にした森林教室を当センター庁舎と前庭を利用して行いました。児童を3グループに分け、それぞれ1時間ずつ森林学習、丸太切り体験、火起こし体験を交替で実施しました。

森林学習は、地球温暖化をテーマにしたアニメと森林の講義です。昨日の高尾山登山の疲れからか眠そうな子供達も目立ちましたが、アニメーションが始まると食い入るように見始めました。そしてアニメーションの終了時には拍手も起きてますまずの反応でした。続いての講義では森林官の仕事の紹介・高尾山の動物たち・木材の生産など、さまざまなテーマに分けての講義を実施しました。今年から新たに加えた「SDGS」の説明については「森林が豊かになれば緑のダムとなり、安全な水を確保することに役立つ」というストーリーで講義しましたが、先生からは「タイムリーな内容で良かった」等の感想も頂けました。

丸太切り体験は、当センターを支えてくれているボランティア（フォレストサポートスタッフ）の方々が担当してくれました。切った輪切りはまだ乾燥していないので、皮を剥いてお土産にしました。全員腕が痛くなるほど鋸を挽き、様々な厚みにできあがった輪切りを手に満面の笑みでした。

火起こし体験は、雨が降っていたので湿度が高く火種が出来にくいのですが、ほとんどの児童が火を起こす事ができ、火が着くたびに拍手と歓声が上がりました。昨年使っていた道具を改良したおかげか、2回以上火を付けた児童もいました。

ケガやトラブルも無く、今回も無事に終了することが出来ました。（岩）



残念ながら雨の中での開催となってしまいました



もう少しで火種ができる！頑張れ

森林教室

八王子市立 片倉台小学校

10月1日（金）、八王子市立片倉台小学校5年生59名の森林教室を行いました。台風の影響で雨風ともに強いことから、残念ながら森林観察は中止とし、座学と丸太切りをみの森林教室となりました。

開校式後、1班は隣接施設599ミュージアムの会議室を利用して座学、もう1班は当センター1階展示室を利用して丸太切り体験を行いました。昼食後には、班を入れ替えてそれぞれ座学、丸太切り体験です。

座学については、学校からの要望もあり、今年からSDGsと森林の関わりについても説明を加えることとしました。SDGsについては、解説担当はかなり勉強し、児童向けにわかりやすい内容にしたところです。児童達の関心も高く講義内容を一生懸命聴いていました。

丸太切り体験は室内ということもあり、3密にならないよう間隔を保ちつつ実施。児童は早く始めたくてうずうずしていましたが、まずは指導者から鋸の使い方の説明。その後順番に丸太切りを行いました。「手が疲れる～」などと声を上げつつ、1人2～3枚づつ切ることができ、満足そうな笑顔を見せてくれました。（高）



599の施設を借りての学習



鋸使いも慣れたら楽勝！

森林教室

八王子市立 第四小学校

八王子市立第四小学校5年生79名の森林教室を、10月4日（月）に日影沢キャンプ場と周辺の国有林を利用して行いました。

午前中は、6班に分かれ国有林内を森林観察。人工林と天然林の違い、木の生長などを目にしてもらいながら学習。「ひっつき虫」と呼ばれる様々な植物の種を服にくっつけたり楽しみながらコースを一回りしました。他の学校と同様、サワガニ探しは全員夢中でした。

午後は、管理棟での座学とキャンプ場敷での丸太切り体験の2班に分かれ、交互に実施しました。座学ではSDGsについても触れたところ、興味を持って耳を傾けていました。

丸太切りを始める前に、一人ずつ丸太を抱えてもらい木の重さを体験。あまりの重さに児童もびっくり。本番の丸太切りでは、教えられたとおりに上手に鋸を使って輪切りを2～3枚作成。皮むきを済ませた輪切りは大事に持ち帰ることになりました。

児童からは「森林の働きを知ることができ、とても勉強になった」「丸太切りは初めて体験で切るのが大変だったけど楽しかった」など素晴らしい感想がありました。学校としても久しぶりの野外活動ということもあり、元気はつらつの児童の姿が印象的な1日でした。（高）



超薄切りに挑戦！



ひっつき虫あるかな～

公募イベント 森林カレッジⅢ

10月9日（土）に令和3年度森林カレッジⅢが開催されました。本年度は5月に予定していた森林カレッジⅠが新型コロナウイルス感染症対策の影響で中止となったことから実質2回目の開催となりました。カレッジⅢでは、例年は間伐作業を体験していただいていたのですが、近隣に適地がないことから、今年から講義のみとなりました。

講師には元森林総合研究所多摩森林科学園園長の三輪雄四郎先生を招き「木の成長としくみ」についての講義を実施しました。特に肥大成長・伸長成長については形成層における細胞分裂の仕組みについての解説がありました。また、同じ体積の木材の重さは木質部に含まれている空気の量によって変化しますが、すべての木材の比重は約1.5で同一であることなど、基礎的な知識であっても意外と認識されていない部分もあり、改めて学ぶことの大切さに気づかれた方も大勢いらっしゃった様子でした。

アンケート結果を見ると、今回は体験作業が無いにも関わらず講義内容に満足された方が多く、主催側としても実施した意義は大きかったと感じました。

今後、最終回となるカレッジⅣでは「炭焼き」を実施する予定です。参加者の方々にはコロナに負けずに次回まで元気に過ごされることを願って解散となりました。（磯）



実際に木片を使って木材の比重を体感



普段目にはできない木材の断面写真



皆さん熱心に聴き入っています



講師の三輪先生



様々な質問が出されました



森林づくり体験模型

森林教室当日、雨のため森林観察ができなくなってしまった場合の対策として、児童が「植付けから間伐までの林業の流れ」を模型を使って疑似体験できる屋内プログラムを作成しました。模型は非常勤職員が中心となって作成しました。

苗木の配置、苗木が育つために支障となる繁茂した草や獣害の対策、数年後の生長した植栽木の間隔と間伐後の状態などを児童が模型を動かしながら考えることができる内容です。

まだ実演の機会はありませんが、模型の一部を紹介いたします。



模型全体



苗木を植えてみよう



シカだ！



シカが苗木を狙っている！



苗木が草に隠れてしまった！
どうしよう



間伐するとどうなるだろう

編集後記

秋の観光シーズンと、緊急事態宣言の解除が重なり、高尾山を訪れる方々が増えました。登山帰りに当センターに立ち寄って下さる方も増えています。

センボンヤリ



Forest通信 NO.393

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

